

天保八年
 大阪
 錦
 新聞
 第十号

巻本
 大岡越前守

役者
 阪東彦三郎

東京築地新富町の
 芝居新富座へ評判
 よく天二坊々大當りまで
 出と小彦三郎の大岡越
 前守の役々大當りとして
 先日も華族の大岡さん見物み
 いらして時々大岡さんより彦三郎小贈らまじと歌へ
 此度遠つ親に在務の時刑律を整へて今の開化の
 御代にあたり其事柄とありまはしに守田何かの
 座小て業なきにかゝるを見て
 其功すばし昔の花もまどのこるかほりともあつらん塘

新聞錦馬

